

平成27年6月議会 一般質問

民主党・府民クラブ府議会議員団の堤です。通告に従いまして質問させていただきます。

今回の質問は、

府内産木材の活用・森林整備の今後について

京都縦貫自動車道開通による京都府南北の大交流について

具体的な展開についてお伺いしたいと思います。

理事者の皆様におかれましては簡潔かつ明瞭な答弁をよろしくお願いいたします。

あいさつ

先の選挙で初当選いたしました、民主党・府民クラブ京都府議会議員団の堤淳太です。議長のお許しを頂きまして、一言ご挨拶させていただきます。

私は、今ある社会は先人達から引き継いできたものであると同時に、次の世代から借りているものと考えています。先人が築き上げてきた今の良い社会を、より良い社会として次世代に引き渡していくことが政治家の第一の仕事であると考えています。これから更なる明るい豊かな京都府の実現に向けて全力で取り組んで参りますので、皆さまどうぞよろしく申し上げます。

府内産木材の活用・森林整備の今後について

森林は、林産物の供給、水源の涵養、山地災害の防止等の多面的機能の発揮を通じて私たち府民の生活に様々な恩恵をもたらしてくれます。本府における森林の占める割合は75%と高く、これまでも府内産木材認証制度を始めとして府内産木材の活用を積極的に推進して参りました。また、国においても公共建築物等における木材の利用促進に関する法律を定め、潜在的な需要の大きい低層の公共建築物における木材の積極的な利用を奨励しています。その成果として例えば、本年八幡市に於いて府内産木材を使用した子ども・子育て支援センターすくすくの杜がオープンしました。山田知事の先進的な取り組みと、職員の皆さまの日々の尽力に深く敬意を表します。

しかし、その一方で先にご紹介した施設においても、その全量を府内産木材で賄うことが出来なかったという供給の課題や、府内産木材の価格が他の一般的な木材の価格と比較して約2割割高となっているというコスト面の問題もあります。供給の面の問題は需要と密接に関わってきますので、木材需要を伸ばすためには府内産木材の価格を引き下げるも大きな課題の一つかと思われれます。

その観点からすると、本府は今年度も木材生産の現場である森林の整備に8億6,000万円の予算を編成し、木材供給に努めています。しかし、その先の加工流通の段階において、本府内に日本農林規格（JAS）の認定を受けた加工場や木材の乾燥を行う事が出来る施設を有する事業所が少ないことが、生産から先の流通におけるコスト増並びにそれが木材の価格に反映されています。本府南部においては主に近隣の奈良県で加工を行っておりますが、今後本府が推進する成長型林業構想において中北部地域の林業活性化を行う際には、流通に関わるコストを削減するためにもこれら加工流通に携わる事業者への支援が必要に思われれます。

そこでまず、

1. 府内産木材振興のために加工流通に携わる事業者への支援

についてお伺いします。

次に、生産を川の上流、加工流通を中流とするなら、下流となる消費の段階於ける振興策についてお伺いします。現在本府は環境にやさしい京都の木の家づくり支援事業を行い府内産木材認証制度で認証される木材を使用して新築・増改築した際には40万円を上限として1立方当たり1万円の助成を行っており大変活用されております。しかし、人気が高いこともあり昨年度も件324の申請があり、予算切れを起こしました。昨年度民主党議員団で行いました事業レビューに於きましても環境にやさしい京都の木の家づくり支援事業の枠増を求める判断を行いました。今後益々府内産木材の需要を伸ばしていくためには助成枠の拡大が求められますと考えます。

そこで、

2. 環境にやさしい京都の木の家づくり支援事業の利用拡大に向け取り組み

についてのご所見をお伺いします。

さてここで、視点を変えて森林整備の面からお伺いします。木材の需要が伸びれば山地にも人出が入ります。人出が入った森林は土砂災害の対策効果も高まると期待されます。

一方で木材として需要が期待されにくい竹林に関しては人の手が入りにくいのが現状です。しかも竹林は樹木よりも繁殖力が強く育成が早いという特性もあります。また、単一植生であるため生物多様性の面でも問題があります。さらには、竹は急斜面においても生育する事が可能で、現在平地にあった竹林がどんどんと山の斜面にも侵食しています。加えて、竹は根が浅いために樹木よりも土をつかむ力が弱く土砂災害の危険性も森林より高い点が問題とされています。森林整備を行う時、竹林対策も考慮して取り組む必要があります。しかしながら、これらの竹林の中にはかつてはタケノコ畑として利用されていましたが、現在は放置されてしまっている竹林もあります。これらの放置竹林は土地の区分としては山林ではなく、農地として利用されていたものであります。農地として利用されていた為、森林整備事業としては対象外となり、手を入りにくいという問題もあります。しかし山林における竹林も、農地における竹林も竹林は竹林です。今後の森林整備において危険と判断される竹林においては山林・農地の区別なく整備を行って行く必要があると考えます。

そこで、

3. 農地を含む放置竹林に対する整備について

本府としてのご所見をお伺いします。

この質問の最後に、森林整備と花粉症の対策についてお伺いします。日本における花粉症の有病率は人口の30%以上に達し、今や国民病とも言えます。私も花粉症で春先には大変悩まされます。花粉症の原因はスギ・ヒノキ等の針葉樹の花粉飛散が原因ですが、現在は花粉量が従来品種の1%に満たないスギ・ヒノキの品種が開発されています。この品種の植林に対して林野庁の「花粉発生源対策促進事業」で補助金が交付されております。

今年の3月27日に行われた参議院予算委員会でも安倍総理大臣も自ら花粉症であることと共に花粉症の撲滅に向けて、花粉の少ない品種への支援を表明されました。本府に於きましても過去の議事録を調べたところ平成21年の予算委員会総括質疑で花粉の少ない品種の植林についての質問があり、山田知事からも「総合的な森林づくりという中で、この問題もしっかりと取り組んでいきたい」との答弁がありました。

そこで、

4. 花粉が少ない品種の植林に関する取り組み状況 についてお伺いします。

京都縦貫自動車道開通に伴う京都府南北の大交流について

京都府の南北を繋ぐ京都縦貫自動車道の完成・供用開始を目前に迎え、これから山田知事が掲げた大交流が益々加速していくことと思われまます。折しも本年3月14日に北陸新幹線も開業し、観光を始めとした日本の関心が日本海側に寄せられています。この日本海側に向けられた関心と、本府が展開する海の京都構想が相乗効果をもたらして丹後・中丹地域活性化の取り組みが大いに成功する事を期待しております。

海の京都構想では海の京都博を始めとした種々のイベントも行いながら、丹後・中丹地域への観光客誘致に取り組んでおります。これによって観光客が当該地域へ足を延ばし地元産品を消費する事で経済が活性化されることが期待されます。これとは逆の形になる、丹後・中丹地域の産品が京都市内や大阪、あるいは東京へと出荷され消費されることによる地域の活性化について現在どのように取り組んでいこうとされているのでしょうか。また、京都縦貫自動車道沿線並びにそれ以南の地域の地元産品に関する府内南北の交流についても重要と考えますが、いかがでしょうか。

まずは、

1. 府内南北地域の特産品の大交流という視点で、今後の地元産品の販促をはじめとする振興策について

本府のご所見をお伺いします。

京都縦貫自動車道の完成によって南北のアクセス時間が大幅に短縮されます。これによって京都・宮津間を結ぶ高速バスの所要時間は、鉄道で要する所要時間とほぼ変わらなくなります。一方でバスの運賃は宮津・京都間で2,600円に対して鉄道での運賃と特急料金合計では3,810円と、バスの方が大変割安となっております。このことを考えると今後高速バスの需要が伸びる事や、鉄道と並んで高速バスが南北を結ぶ公共交通の軸として成長する可能性があることも期待されます。しかし、現在の路線において高速長岡京と宮津・天橋立インターの間にはバスの停留所が設けられないことになっています。この高速長岡京と宮津・天橋立インターの間に停留所が設けられると、より利用される路線となると考えます。もちろん事業者の意向もありますが、

2点目として

2. 縦貫自動車道における高速バスの中間停留所に関して

本府として今後の計画をどのようにお考えかお伺いします。

最後に、縦貫自動車の沿線と重なる京都・西の観光推進協議会の活動についてお伺いします。京都・西の観光推進協議会が観光を振興しようとしているエリアは京都縦貫自動車道の中間に位置しています。北陸新幹線の開通によって観光が賑わう金沢市と対照的に観光誘致に苦戦するその中間駅という現象と同様に、縦貫自動車道の中間地域はその完成によっても観光振興には苦戦する事が予想されます。特に乙訓地域は森の京都、お茶の京都プランからも外れてしまっています。

そこで、

3. 京都・西の観光推進協議会の取り組み

に関して本府のご所見をお伺いいたします。

平成27年6月議会

一般質問

堤 じゅん太

以上で、質問を閉じさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。